N◎VAアサクサに、一人の少女がいた。

その少女は、寂れた町に歌声を響かせ、アサクサ中を魅了した。

だが、それは芸能界という「籠」の中で、ただただ囀ることしかできない、彼女の悲痛な叫びであった。

その「小鳥」は自由を求めて闇へと逃げだす。

そして、一人のボディーガードと出会った。

だが、N◎VAという檻は、小鳥の自由を奪うかのように蠢く。

**トーキョーN◎VA　The　Detonaiton『籠の中の小鳥』**

――長い夜が始まる。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

▼ハンドアウト▼

PC１．推奨スタイル：カブト　コネ：小鳥

仕事を片付けて一杯引っ掛けようと思った夜、アサクサの路地で自由を求める少女と出会った。この町で知らない者はいない、アイドルの『小鳥』だった。

「私を守ってください。自由になりたいんです」

悲痛な面持ちで依頼をしてくる彼女からの報酬は０。

だが、人気アイドルの護衛とあれば、そんなものは必要なかった。

PC２．推奨スタイル：カブトワリ　コネ：ジュング♂

千早グループの音楽部門CMEの敏腕プロデューサー・ジュング♂は、ご当地アイドルともいえる『小鳥』を華々しくデビューさせていた。あなたも知っているその男から殺しの依頼が来た。いや、正確には『小鳥』がボディーガードを雇って失踪したので連れ戻してほしいという話だ。ボディーガードの生死は不問。報酬もいいなら文句はない。

PC３．推奨スタイル：イヌ　コネ：佐々木麗香

知り合いの情報屋から知らされたのは、失踪した妹の手がかりが、アサクサを仕切るヤクザ、音羽組にあるということ。そして、どうやら芸能界とも繋がっているらしい。

佐々木麗香というその女ヤクザのアイコンを見ながら、あなたはパトロールついでに出かけることにした。

PC４．推奨スタイル：ニューロ　コネ：千早雅之

いつものようにウェブを放浪していると、千早グループの社長、千早雅之から連絡を受けた。どうやら音楽部門であるCMEでスキャンダルの種ができているらしい。ライブを控えたアイドル『小鳥』の突然の失踪がそれである。

「あらゆる手段でこのスキャンダルを処理してください」

やれやれ、また面倒事だ。しかしお得意様の機嫌を損ねる訳にもいくまい。

▼キャスト紹介▼

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

PC1　真武屋　刃（マブヤ　ジン）　16歳・男

スタイル　カブト◎●，カタナ，レッガー

数年前、とある事件に巻き込まれ両親を亡くした少年。当時、自分以外の誰も守れなかったことが悔しく、N◎VAの世界で人を守るための力を求めた。裏社会でチンピラまがいのことをしながらフリーのボディガードとして生活し、「他人を守る」という信念に自分のすべてを託す。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

PC2　天野　リーザ（アマノ　リーザ）　18歳・女

スタイル　タタラ◎，フェイト●，カブトワリ

「スイーパー天野」という個人経営のジャンク屋＆掃除屋をしている娘。表向きはただのゴミ屋だが、実際は暗殺や情報消去など、何でも請け負う裏稼業のプロ。物心ついたときから家族はいない。ストリートで暮らすことしかできないが、いつか「幸せ」を探したいと思っている。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

PC3　城ケ崎　明（ジョウガサキ　アキラ）　27歳・男

スタイル　エグゼク◎，カリスマ●，イヌ

かつて警察組織であるブラックハウンドに所属していたが、内部の腐敗に幻滅し、自ら独立し警備会社をつくった。それから多数の事業が成功し、今では城ケ崎グループというそれなりの企業になっている。常に冷静で、何を考えているのかわからないところがあるが、表向きの仮面だけなのか、それとも……。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

PC4　“智”犬坂　毛野（“ウィズダム”イヌサカ　ケノ）　17歳・女

スタイル　マネキン◎，カブキ●，ニューロ

悪名高いスーパーハッカーである“智（ウィズダム）”の、マネージャーを自称する少女。ポケットロン（ケータイ）にじゃらじゃらストラップをつけ、ブレザーとミニスカニーソで歩き回る姿はただの頭の悪いギャルでしかない。しかし実はそのスーパーハッカー本人である。好奇心が旺盛。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

**RL：**さて、はじめましょう。

**Dさん：**まず自己紹介から？

**Aさん：**キャスト間コネも取らないといけないですね。

**RL：**はい。そのへんからやりましょう。

▼自己紹介▼

**Aさん（以下ジン）：**「僕は真武屋　刃。N◎VAのストリートで、しがないボディーガードをやってる。昔、両親が事件に巻き込まれて死んでから、僕は人を守る力を求めたんだ。……今、ちゃんとそれができているかは分からないけどね。」というわけで、正統派主人公っぽいキャストをつくってみました(笑)

**RL：**うむ。いいですねぇ。

**Cさん：**ちゃんとかっこよく決められるか？無理すんなよ(笑)

**Bさん：**自分がちゃんと絡んであげるから！(笑)

**ジン：**みなさんに頼ります(笑)

**Bさん（以下リーザ）：**じゃあ私いくよ。プルルル……と電話が鳴る。それが留守電に切り替わり「あー、こちら“スイーパー天野”。清掃は１、リサイクルは２、見積もりは３をコールしてください」と、めんどくさげな女の声がする。そこで依頼人が49をコールすると……あ、これは「至急」って意味ね(笑)　直接私につながる。

**Dさん：**おー、かっこいいね。

**リーザ：**表向きは、いろんなものをリサイクルとか掃除しているだけの何でも屋です。家族はいない。裏の仕事も基本的に何でも受けますけど、キーがフェイトなので、自分の信念に合わないとどうなるかわからないという(笑)

**RL：**了解です。考慮しましょう(笑)

**リーザ：**ありがたいです(笑)

**Cさん（以下アキラ）：**次は俺か。名前は城ケ崎　明。城ケ崎グループという企業連合の社長だ。

**リーザ：**しゃっちょさん、あたしお酒欲しいー(笑)

**アキラ：**そういう社長ではない(笑)ハンドアウトによると妹が失踪しているということだが……、自分が警察まがいのことをやってるのは、実はその妹のため、ということにしておこう。表向きはもちろんN◎VAの安寧のためだがね。「これがわが社の方針だ」とかそんな感じ。

**Dさん：**悪役っぽいなぁ(笑)

**アキラ：**そうだろう。しかしN◎VAではこういう癖のあるキャストの方がカッコいいのだ(笑)

**RL：**プロフェッショナルの協力を楽しむ感じですからね。

**ジン：**僕、うまくやらないと反発しちゃうかも(笑)

**アキラ：**おお、存分に反発するがいい(笑)

**Dさん（以下ケノ）：**「ちゃーす。スーパーハッカー“智（ウィズダム）”先生のマネージャーの犬坂　毛野っす。今後ともよろしくー」チュッパチャップス舐めながら、へらへらした笑みを浮かべて挨拶するっす。

**リーザ：**頭悪い感じを前面に押し出すんだね。

**ケノ：**うい(笑)　ゆるふわパーマのセミロングに猫のような目つきで面白そうなことに首を突っ込んでいきます。で、こんななりだけど、実はスーパーハッカー本人。

**RL：**まぁこの世界だと、有名人なら代理人とか使うだろうし、マネージャーってのもありですか。

**ケノ：**「楽しく気楽にやるっすよー」

▼コネクション▼

**RL：**じゃあキャスト間コネ、とってもらいましょうか。ジン→リーザ→アキラ→ケノ→ジン、の順番でまわしましょう。

**リーザ：**じゃあジンと私は幼馴染ってどうですか？(笑)

**アキラ：**おお、いきなり来るねぇ。

**ジン：**いいですよ(笑)

**リーザ：**よっし、燃えてきた(笑)

**RL：**期待してますよ！

**アキラ：**私はリーザに何度か仕事を依頼したことがあるってところだろうな。で、誠実なので信頼している、と。

**リーザ：**はーい。

**ケノ：**社長はお得意様っすよ(笑)

**アキラ：**まぁそうなるだろうなぁ。

**ケノ：**わっちの正体は知ってる？どっちでもいいけど……。

**アキラ：**知ってる方がやりやすいな。でもまぁマネージャーとして扱うよ。

**ケノ：**了解っす。

**ジン：**ケノかぁ……(笑)

**ケノ：**どしたっすか？あたいは幼馴染でもいいっすよ(笑)

**リーザ：**そんなに幼馴染はいらないよ！

**ジン：**どこのマンガだよ(笑)　というか一人称は何なの？わっち？あたい？

**ケノ：**気分でいろいろ変わるっす(笑)

**ジン：**……正体を知らずに、ただのマネージャーって思ってた方が楽だなぁ、プレイヤーの精神的に。

**ケノ：**あいあい。いいっすよー。

**RL：**では少し休憩して、オープニングから。まずマスターシーンからです。

▼暗闇の中で▼

　暗闇の中、二つの影が蠢き、囁く。

　片方が気だるげな甘い声で呟く。

　「そろそろ、あの娘、消しちゃってもいいんじゃなくて？」

　それに答えるのは男の声。

　「……む、しかしだな……」

　ガターンッ！

　物が落ちる音がする。どうやら、物陰から、誰かが今の話を聞いていたらしい。

　「……聞かれちゃったみたいね」

　「しかたない、お前の言うとおりにしよう」

　「それでこそ、私の愛しい人ね」

**アキラ：**わかりやすいな。

**RL：**キャスト間の絡み中心でいくには、わかりやすい方がいいんですよ(笑)

**リーザ：**男の方、へたれっぽい(笑)

**RL：**まぁそれはそれで(笑)　次のシーンはケノさんです。

**ケノ：**あいー。

▼スキャンダル▼

**RL：**では、君がいつものようにウェブの海を散策していると、千早グループの社長、千早雅之さんから連絡が入ります。

**ケノ：**ウェブの中なら“智”の姿かなぁ。「……依頼か、千早社長。今は忙しいのだが」あ、渋い男の声で。

**RL：**「ええ、大変申し訳ないのですが。どうやらわが社の音楽部門であるCMEで騒動の種があるようでして。」

**ケノ：**「自分の身ぐらい自分で拭いたらどうなのだ？」

**RL：**「その種がなかなか複雑な立ち位置にありまして。ですのでプロの手をお借りしたいんですよ。報酬はいつものようにマネージャーさんにお渡ししておきますので」

**ケノ：**なら、ピピッ、と一瞬ウェブを光が走って、ある程度の情報を掴みます。「なるほど、『小鳥』か……。これをどうすればいいのだ？」

**RL：**勝手に情報掴まれた(笑)　「端的にいえば、明日のライブまでに連れ戻していただければありがたいですね」

**ケノ：**明日！？(笑)　早すぎっす！「急だな……。なら１プラチナムほど経費で先に貰おう。割が合わん」

**RL：**「その位でしたら一向に構いません。よろしくお願いします」マネージャーの口座にお金が振り込まれました(笑)

**ケノ：**おー、もらえるんだ(笑)　気前いいなー。

**ジン：**でもそれってもう依頼こなすしかないよね。

**RL：**「あらゆる手段を用いて、このスキャンダルの処理をよろしくお願いします」と言って通信は切れます。

**ケノ：**しまった！はめられたっす！

**RL：**シーンカット。

▼手がかり▼

**RL：**次は社長のシーンですね。

**アキラ：**ならば社長室でいろいろと仕事をしていよう。

**RL：**そんなところに、君と懇意にしている情報屋がやってきます。うーん、まずは受付からきちんとくるのかな。秘書が「社長、お客様です。名前は……」えーと、何にしよう。

**ジン：**決まってないの？

**RL：**単なる情報屋だから(笑)

**ケノ：**じゃあタン・ナールさん(笑)

**RL：**まぁいいか、それ採用。

**アキラ：**「タン・ナールか。通してくれ」と秘書に言う(笑)

**リーザ：**適当だなー(笑)

**RL：**では通されてきたタンが話し始めます。「社長。ついに掴みました。妹さんのことですが……」

**アキラ：**表向きは冷静にしていよう。

**RL：**続けます。「……どうやら、音羽組の異端、佐々木麗香っていうヤクザが絡んでいたみたいです」

**アキラ：**ふむ……。「ここまで尻尾を掴ませなかったとは、なかなかの腕があったということか……」

**RL：**「私はここまで掴んだ所で、少しドジを踏んでしまいまして。ちょっと動けそうにないんです。それで情報だけでもお持ちしようと思った次第で」

**アキラ：**「タン。君はしばらくわが社のVIPルームで身を隠しているといい。これはひとまずの礼だ」とりあえず１シルバー渡そう。「残りは何か進展があったら払おう」

**リーザ：**プロっぽい(笑)

**RL：**「社長、ありがとうございます。では、私はこれで」

**アキラ：**秘書にVIPルームに連れて行かせよう。これで終わりかな。

▼自由になりたい▼

**RL：**ではジンのシーンになります。

**ジン：**一仕事終えて、ねぐらに帰ろうと歩いていればいいのかな。

**RL：**そうです。

**ジン：**「ふぅ……、なかなか大変な仕事だったな」大きく伸びをして、マンションに帰ろうとしてよう。

**RL：**そこで、ドンッ！とあなたに誰かがぶつかってきます。見た目は少女ですね。人目を隠すように大きめのフードをかぶっている。

**ケノ：**この町だったら変な格好の人多いから全然怪しくないっす(笑)

**RL：**「きゃっ！……ご、ごめんなさい」

**ジン：**「君、大丈夫かい？」よろけないように支えるけど。

**RL：**ならジンはそこで気づきます。彼女は最近アサクサで売り出し中のトップアイドル『小鳥』であると。

**ジン：**「……もしかして、小鳥さんかい？」

**RL：**「あ、あの……」彼女は肯定も否定もせずにおろおろしています。

**ジン：**困った顔をしよう。「なんか訳ありみたいだね……。一人でこんなところをほっつき歩いていたんじゃ、どこで売り飛ばされるかわかったもんじゃないよ」

**RL：**そこまで聞いて、彼女はあなたが信頼できるとでも思ったのでしょう。こう切り出してきます。「すみません。……助けていただけないですか？　私、自由になりたいんですっ！！」

**ジン：**「僕みたいなチンピラにいきなりそんな話をされてもな……。立ち話もなんだから、ちょっと座ろうか」そこらの喫茶店に入ろうとします。

**RL：**小鳥がほっとしたような表情を見せた時、遠くの方から黒服のチンピラ達が「探せっ！この辺に逃げたはずだ！」とか言いながらわらわらやってくるのが見えますね。それを聞いて小鳥はあなたの陰に隠れようとします。

**ジン：**「悠長なことも言ってられないみたいだね……。とりあえずこっちに！」手を引っ張って裏の方へチンピラ達を捲いていきます。

**RL：**了解。じゃあいったんシーンカット。

▼殺しの依頼▼

**リーザ：**私のオープニングですね。

**RL：**はい。千早ミュージックエンターテイメント……通称CMEの売れっ子プロデューサー・ジュング♂さんから電話がかかってきます。

**アキラ：**これまた……わかりやすい名前だな(笑)

**リーザ：**いつものように留守電に繋がりますよ。「あー、こちら“スイーパー天野”。清掃は１、リサイクルは２、見積もりは３をコールしてください」

**RL：**49がコールされて、あなたに繋がります(笑)

**リーザ：**はいはい。「えー、どちらさま？」

**RL：**「有名なスイーパーさんの力を借りたい。私はジュング♂という」

**リーザ：**「ああ……。えーと、音楽プロデューサーさんでしたっけね。何を処理すれば？」

**RL：**「実は……」ということで、小鳥さんを連れ戻してほしいとの依頼です。「どうやらボディーガードらしき人物を雇ったようで、少し厄介なのだ。そのボディーガードの生死は問わない。報酬は前払い1ゴールド。無事に連れてきてくれれば追加を払おう」

**リーザ：**「……連れ戻し、ですね。承りましたよっと」

**RL：**ならそこで電話は切れます。シーンカット。

**RL：**さて、ここからミドルシーンになります。誰からやりましょう？

**アキラ：**じゃあシーンもらおうか。情報の裏付けを取りたいからな。

▼コンタクト▼

**アキラ：**というわけで、ケノにつなぐ。さっきのシーンからそのまま。

**ケノ：**呼び出されたっす。どこかの画面にお菓子食べてるわっちの顔が映るっすよ。「ふぉ？しゃちょふぁん。ふぁんふふぁ？」

**リーザ：**しゃべれてない(笑)

**アキラ：**「少し手伝ってほしいことができてね。“智（ウィズダム）”先生に。それはそうと、はしたないぞ」(笑)

**ケノ：**もぐもぐ……ごっくん。「えー、お仕事っすか？　今先生も他の依頼で結構大変みたいなんすけど……」

**アキラ：**「前々から調査を頼んでいた件だ。別口から気になる情報が入ったからまず裏を取ってほしいのだ」ってことで、妹のこと、前々からなんとなく頼んでたことにしてみる。

**ケノ：**そんなこと言われたら断れないじゃないっすか(笑)　「んもーっ、人使いが荒いっすね……」ぶちぶち文句言いながら情報収集するっすよ。調べる項目はとりあえず佐々木　麗香？

**アキラ：**お願いする。

**RL：**目標値は18まで。

**ケノ：**んじゃ<誘惑><交渉><社会：ストリート>を組み合わせて……成功っす。

**RL：**佐々木　麗香は表向きは音羽組に所属している娼婦。年齢は20後半。芸能界にもコネがある。で、最近は音羽組からも姿を消し、とある男のところに転がりこんでいるらしいと。で、前々から「あたしは夢を叶えるの」と散々こぼしていたらしい。

**ケノ：**「この女がなんか関係してるっすか？」

**アキラ：**「そうらしい。音羽にも話をつけておいた方がいいな……」<ホットライン><社会：企業><コネ：音羽南海子>で話を聞く。達成値は18。

**RL：**なら組長の方からこういう連絡がきます。「そいつはもううちを抜けた。われわれは関係ない。」だそうです。あと情報をおまけしときましょう。「うちにいた時は人買いなんかにも手を出していた」

**アキラ：**ふむ。その線で妹がどうにかされたのか。

**ケノ：**あっしはもういいっすか？(笑)

**アキラ：**「また手伝ってもらうことができると思う。その時に頼む」と言って電話を切る(笑)

**ケノ：**ちょ(笑)　扱いひどいっす！(笑)

**RL：**シーンカットしよう(笑)

▼舞台裏▼

**ジン：**とりあえず小鳥について調べます。

**RL：**はい。18までの情報がありますよ。

**ジン：**<コネ：九条政次>は使える？

**RL：**スポーツ紙の編集長ですね。いいですよ。

**ジン：**なら達成値は13。

**RL：**基本的な情報が出ます。アサクサで人気絶頂のアイドル。経歴は不明。

**ジン：**こんなもんか。

**リーザ：**こっちは依頼人の裏を取ります。ジュング♂について調べる。<社会：企業><知覚><シャープアイ>で達成値18。

**RL：**最近『小鳥』というアイドルを売り出し中。ライブが明日開催されるらしい。で、とあるマネキンに近頃ご執心とのことです。

**リーザ：**ですよねー(笑)

**RL：**OK？　なら次のシーン。

▼交差する二人▼

**リーザ：**シーンが欲しいです！

**RL：**こっちもリーザさんの予定でした。ジンの所……というか、小鳥の所へ向かう感じでよろしい？ジュング♂さんに聞いてある程度の場所は割れているってことで。

**リーザ：**了解です。なら裏路地をひょこひょこ歩きながら「小鳥さーん、いたら返事してくださいなー」ってこの場に似つかわしくない間の抜けた声で呼びかけておくよ。

**ジン：**登場していいの？

**RL：**はい。結構です。小鳥さんもそばにいます。リーザの声が聞こえると、彼女はびくっとして縮こまります。

**リーザ：**よし、気配を感じて近づいていこう(笑)

**ジン：**なら小鳥を後ろに隠して待っていよう。

**リーザ：**陰からそっと二人の方に近付いていって……。

**ジン：**刀をリーザの前に突きつけるよ。

**リーザ：**おっと。同じタイミングで拳銃をジンに向けてるよ。当然のようにね。

**ケノ：**カッコいいっす(笑)

**リーザ：**「おい、ジンじゃないか。……あんた、ストーカーの気でもあったのかい？」視線をそらさずに言おう。

**ジン：**こちらも視線をそらさずに「馬鹿言わないでくれ……。僕も何が何だかわかってないんだよ。まだね。……そういうリーザこそ、彼女を掃除しに来たのかい？」

**リーザ：**「掃除というか、リサイクルかな。あたしとしては、お家に帰ってもらえればそれで充分なんだけど……」後ろの小鳥さんに声をかけますよ。

**RL：**「いやですっ！私は……、もうあんなところにいたくない……」ジンにしがみついてますね。

**リーザ：**「なんだか訳ありって感じだね」小鳥に何か変わったところがないか観察してみたいんですけど、できます？

**RL：**いいよ。

**リーザ：**なら<知覚><シャープアイ>で達成値16。

**RL：**ところどころに小さく火傷の跡みたいなものがあったり、打撲っぽいものがあったりするね。

**リーザ：**「ふぅん。アイドルってのも因果な商売みたいだね」そう言ってひとまず銃を下します。「あたしにも話を聞かせちゃくれないかい？」

**ジン：**こちらも刀を仕舞おう。「とりあえず場所を変えさせてくれ。リーザまで出てくるってことは、相手もなかなか切羽詰まってるんだろうし……」

**リーザ：**「切羽詰まってるんだろうねぇ。……歩きながらの方がいいんじゃない？」

**RL：**では小鳥さんがぽつぽつと話し始めます。「私は、もうあそこでの生活が限界なんです。最初はみんなの前で歌えて、これもいいかな、って思っていたけど。……どんどん自由がなくなって、言う通りにしないとひどい目にあって」

**ジン：**「そうか。辛かったんだね」

**RL：**「……私、聞いちゃったんです。私がもういらないから、始末しようとしてるって……！」

**リーザ：**「おや、殺しちゃうつもりだったのかい。あたしには連れて帰るように依頼しといてさ……。きな臭いね」

**RL：**「だから……、ここでジンさんに出会って、私、無我夢中で……。その、助けて欲しいんです。報酬も何も払えないですけど……」どんどん支離滅裂になっていくね。

**ジン：**「僕は君を助けることになんの異論もないよ。報酬も……そうだね、出世払いで構わない」

**アキラ：**報酬貰うのかよ(笑)

**ジン：**報酬を要求することで、プロとして行動しようと自分を戒めてるわけですよ！(笑)

**RL：**小鳥は静かに聞いています。

**ジン：**そこまで言ってから、リーザの方を静かに見ます。

**リーザ：**もう、この主人公が(笑)　「そこまで言われて、あたしがなんかできる訳ないじゃないか。裏で何がされているかわかったもんじゃないし……。あたしもね、自分の気に入った依頼しかこなさないことにしてるんだ。小鳥さん。あんたを連れ帰るかどうかは保留だよ！」

**ジン：**「おい、リーザ！」

**リーザ：**「もしかしたらただのわがままかもしれないだろ。あたしはもうちょっといろいろと調べてみるさ」

**RL：**小鳥はぎゅっとジンの服の裾につかまってます(笑)

**リーザ：**そこを軽くにらんでおこう(笑)　「ふん。ジンならその辺のザコじゃ相手にならないでしょ。せいぜいしっかりとお守りをしてなさいよ」

**ジン：**「……恩に着る」頭を下げよう。

**リーザ：**退場します。二人が見えなくなったところで「ったく、なんだよあいつ……。もやもやするな……」って感じで呟きながら(笑)

**ケノ：**お、嫉妬っすか？(笑)

**リーザ：**さあね！(笑)

▼舞台裏▼

**アキラ：**とある男について調べよう。

**RL：**はい。<社会：企業><社会：メディア>などで調べられますね。

**アキラ：**<ホットライン><社会：企業>で達成値21。

**RL：**佐々木麗香が転がり込んだのは、CMEの敏腕プロデューサー、ジュング♂のところですね。ちなみに、彼女が転がり込んだ時期と、ジュング♂が『小鳥』がデビューさせた時期が一致します。

**アキラ：**まぁプレイヤーはわかっていたけどな(笑)

**ケノ：**じゃあ千早のスキャンダルについて情報集めるっすよ。<誘惑><交渉><社会：ウェブ>で達成値15。

**RL：**ジュング♂がデビューさせた『小鳥』が行方不明になってます。えーと、「ジン」というボディーガードが誘拐したことになっていますね。ちなみに神業でそういうことにされています。具体的には指名手配されている状態(笑)

**ケノ：**わかりやすいっすね(笑)

▼出歯亀娘▼

**ケノ：**ジンに会いに行くシーンが欲しいっす。

**ジン：**今度は何が起きるんだ(笑)

**ケノ：**犯人にされてますよ、って教えに行く。ギャルのまんま歩いていこーっと。

**ジン：**場所は……なんかもうどこでもいいや(笑)　とりあえず自分のマンションにしよう。

**RL：**どうぞ。ご自由に(笑)

**ケノ：**じゃあ家に入る前に見かけるっすよ！「あ！ジン君！彼女変えたっすか？」

**ジン：**ぶふっ（お茶を吹く）　げほごほ！

**リーザ：**きったなーい！(笑)

**アキラ：**マジで吹くなよ(笑)

**ジン：**仕方ないだろ！不意打ち過ぎだ！あ、えーと……、目を点にする(笑)

**RL：**小鳥ちゃんはわざとらしく顔を真っ赤にさせてあたふたしてるね。

**ケノ：**「ジン君……。あんまり節操無しだと殺されるっすよ？」(笑)

**ジン：**「だ、か、ら。何の話だっ！ケノ！」

**ケノ：**「リーザちゃんと熱々だったのはどこのどなたでしたっけね」(笑)

**ジン：**「はぁ！？あいつはただの幼馴染なだけだ……。それにこの人は依頼人！今は仕事中なんだ。邪魔しないでくれよ」

**RL：**それを聞いて小鳥ちゃんはなんだか少し寂しそう(笑)

**アキラ：**RLもよく仕掛けるなぁ(笑)

**ジン：**小鳥のしぐさには気づかない(笑)　それでケノに「雑談ならまた今度にしてくれ……。じゃあな」って言って引っ込もうとします。

**ケノ：**おっと待つっす！「あーあ。せっかく、ジン君が指名手配になってるみたいだったから教えに来てあげたというのに。これがあちきの好意に対する返事なんて……。つれない……」よよよ、と、泣きまねしてる(笑)

**ジン：**「……指名手配？」ちょっと考えてから言おう。「……なら、ケノも僕を捕まえに来たのか？」

**ケノ：**「そんなわけないじゃないっすか！誰がたのし……愛しいジン君を売っぱらうなんてそんなこと！」(笑)

**ジン：**「おい、今なんて言いかけた」(笑)

**リーザ：**テンションマックスだね(笑)

**RL：**小鳥が挙動不審になる(笑)

**ジン：**「まぁそれはいい。つまり、家はもう見張られていると言いたいわけだな？」

**ケノ：**「そうっす。だからここは危ないっすよ。……今からわっちの家に来たらどうっすか？」イエローの高級セーフハウスなんで、ここよりは安全のはず(笑)

**ジン：**「なんでそうなるんだよ」(笑)

**ケノ：**「実は……あっしもジン君のことが」

**RL：**小鳥の目がマジになる(笑)

**ジン：**殴る。

**ケノ：**「あいたっ。ひどいー横暴だーセクハラだーうえーん」

**ジン：**「冗談はいい。多分だけど、先生が依頼を受けてるとかなんだろ？」

**ケノ：**「その通り！流石あたくしの貞操をうばったおと」

**ジン：**「奪ってない！」殴る。

**ケノ：**「あいたっ」

**アキラ：**仲いいなお前ら(笑)

**ケノ：**「それはそれとして、安全は保障するっすよ。あとは……」RL、情報収集していいっすか？

**RL：**何のですか？

**ケノ：**ジュング♂について。

**RL：**適切な技能でどうぞ。目標は18まで。

**ケノ：**<誘惑><交渉><社会：メディア>で。20っす。

**RL：**最近『小鳥』というアイドルを売り出し中。ライブが明日開催されるらしい。で、とあるマネキンに近頃ご執心とのこと。まぁ、このマネキンとは佐々木麗香のことです(笑)

**ケノ：**それが分かればいいっす。後ろの小鳥さんに話しかけよう。「小鳥さん、あとでサインください」(笑)

**リーザ：**何でよ！(笑)

**ケノ：**「それはそうとして、ジュング♂さんと佐々木麗香さんに何かされてるっすよね？」

**RL：**小鳥はあからさまに怯えたような表情になりますね。

**ジン：**「そいつらに用済みだからって捨てられそうになってた、って訳か……」小鳥に向かって「大丈夫。君を守るのが、僕の務めだからね。」と声をかけましょう。

**ケノ：**「先生は千早社長からスキャンダルを処理してほしいって言われただけなんすよねー。まぁ悪いようにはしないっすから、あたいの家にカモン！」(笑)

**ジン：**小鳥に言う。「まぁ、こいつは怪しいけど怪しい奴じゃないから」(笑)

**RL：**「ジンさんがそう言うなら、ついていきます」(笑)

**ケノ：**「そうやって女を食い物にしてるっすねー。いやはやジン君ひど」

**ジン：**殴る。

**ケノ：**「あいたっ」

**RL：**えーと、長くなったんでいったんシーン切りましょう(笑)

▼舞台裏▼

**リーザ：**さっきのなんだったのさ(笑)

**ケノ：**いや、ただの日常っすよ(笑)

**RL：**置いといて(笑)　何します？

**リーザ：**小鳥についてちゃんと調べておこう。<知覚><シャープアイ><社会：企業>で達成値21。

**RL：**なら人気アイドル、という基本情報の他に、前歴が完全に不明ということが分かります。具体的には神業で経歴洗浄でもされているのではないでしょうか。

**リーザ：**なるほど。

**アキラ：**私もその情報が欲しいな。<ホットライン><社会：企業>で報酬点も使って、達成値21。

**RL：**なら同じ情報を得ました。あとは、ジンというボディーガードにさらわれた事になってることもわかりますね。ちなみにあなたの妹とは完全に別の姿ですが、よく見ると仕草なんかが似ていたり？

**アキラ：**取り返しに行くか……。

**RL：**では次ですね。

▼捜索▼

**アキラ：**リーザと絡んでおきたいな。

**リーザ：**ならジンのマンションに向かう途中で会いましょうか？

**アキラ：**ああ、それなら出会えそうだね。そうしよう。RL、OK？

**RL：**いいですよ。ではストリート。

**アキラ：**車に乗るとリーザと出会えないから徒歩で移動(笑)　「ここに、妹がいるのか……？」

**リーザ：**腕を組んで路地に立っています。「城ケ崎の社長さんが、こんな時間にこんな裏で何の用だい？」

**アキラ：**「リーザ君か。ただの仕事だよ。私の本業は警備だからね、時には自分の目で現場を確かめることも必要なのさ」

**リーザ：**「に、しては、目がマジみたいだけどね。……CMEに関係してる例のやつかい？」カマかけてみよう。判定していいです？(笑)　<交渉><知覚><シャープアイ>で達成値は14。

**アキラ：**自我で抵抗か？　うーん、ここは話を進めるためにも抜かれておいてやろう(笑)　抵抗は失敗。肩をすくめて「やれやれ。どうやら君も関係者のようだね。ならば話は早い。……ジン、だったかな。その彼にかくまわれているのが、どうやら私の親族のようでね。身内の厄介事で世間に迷惑をかける訳にもいかないからけじめをつけにきたのだ」

**リーザ：**「へぇ。あんたが、ねぇ。どんなけじめだい？」内容によっては行かせないぞ、と目つきでアピール(笑)

**アキラ：**「何、親族を回収して、それで終わりさ。そんな怖い目をしないでくれよ」

**RL：**と、そんなところで……周りがちょっと騒がしくなりますね。いったんシーンをカットしましょう。

▼舞台裏▼

**ジン：**佐々木麗香について調べたいがカードが合わない。失敗しておきます。

**ケノ：**どれだけの人が小鳥をめぐって動いているのか調べられるっすか？

**RL：**いいですよ。

**ケノ：**<交渉><誘惑><社会：ストリート>で達成値16。

**RL：**では、音羽組を追い出されたチンピラ、ブラックハウンド、千早の関係者、城ケ崎グループですね。今のところは。明日になってしまえばもっと広がるだろう予想はできます。

**ケノ：**あいあいさー。

▼集合▼

**RL：**遠くから、サイレンの音が聞こえる。どうやら、ブラックハウンドのイヌたちが、ジンのマンションに向けてやってきているようだ。まだ到着までには時間がある……。という所。

**ケノ：**あっしのお家に行く時間はあるのかな？

**RL：**さぁ？(笑)

**リーザ：**私たちも音に気付くんですよね。

**RL：**そうです。

**アキラ：**それならば、私たちが話をしているところに鉢合せをしてくれるとありがたいな。

**ジン：**いいですよ。出て行きましょう。

**ケノ：**えぇーっ(笑)

**リーザ：**来なくてもいいんだよ？(笑)

**ケノ：**いやいや！行くにきまってるっす。

**RL：**では、さきほどのアキラとリーザの会話がサイレンで中断されてほどなく。小鳥を含む３人が登場します。そして、小鳥はアキラを見て、目を見開く。

**ジン：**また変な奴が増えた、と思って小鳥を後ろに匿っています。

**リーザ：**えーと、なんか女の子が増えてるのを見て(笑)　「ふん、モテモテだね、ジン」

**ケノ：**お(笑)　「今からわっちのお家でラブラブデー」

**ジン：**殴ります。

**ケノ：**「あいたっ」

**RL：**そんなやりとりを小鳥は尻目に呟きます。「兄さん……？」

**アキラ：**そう呟いてくれるなら助かる。あ、えーと妹の名前ってこっちが決めていいの？

**RL：**いいですよ。

**アキラ：**「明日香……なのか？」

**ジン：**「……小鳥？」二人の様子をうかがっていよう。

**RL：**小鳥は……おずおずとうなずく。それから、ジンにギュッとしがみつきます。まだ兄がどういうスタンスで接触しに来たかわかりませんからね。

**アキラ：**「君がジンというボディーガードか。」

**ジン：**「……」黙っています。

**アキラ：**「沈黙を肯定と受け止めよう。そのうえで聞く。君はその娘をどうしたいのだ？」

**ジン：**「……僕はボディーガードだ。依頼があれば、守る。ただそれだけだ」

**アキラ：**「ふむ……。明日香」

**RL：**小鳥はびくっとします。

**リーザ：**私は何があってもいいように見張っています。

**ケノ：**雰囲気に耐えきれずにクッキーでも食べてるっす(笑)

**アキラ：**一言だけ。「……よく、生きていてくれたな」

**RL：**「兄さん……」ほっとします。

**アキラ：**「それは良かった。ただ、これ以上わがままを言われると、仕事の邪魔になる。そろそろいい子にしてくれないか」

**リーザ：**「おいっ」

**アキラ：**「これは家族の問題だ。他人が口出しをしないでもらいたい」リーザにくぎを刺すぞ。

**RL：**「兄さん……。私は、もう嫌なの！自由が欲しいの……。ただ奴隷のように毎日過ごすだけの日々なんて、もうたくさん！……それに」そう言って、小鳥はちらっとジンを見るね。

**ジン：**目だけ合わせて、黙っている。

**RL：**「それに……、うぅっ……、ぐすっ」感極まったのか、泣き始めてしまいますね。

**ケノ：**小鳥の後ろから肩をぽんぽんって叩いて慰めてようかなー(笑)

**アキラ：**「……やれやれだ」

**リーザ：**「社長さんよ！家族だからって完全に相手の意志を無視していいってことになるのかよ！？」流石に口をはさませてもらいますよ(笑)

**アキラ：**「誰がいつそんなことを言ったのだい、リーザ君？　君は感情的になるとすぐに周りが見えなくなる。悪い癖だ」

**リーザ：**「なんだって？　どういうことだよっ！」

**アキラ：**「誰も明日香の意志を尊重しないとは言っていない。それに……だいたいの状況も分かった」ジンを見よう。

**ジン：**「……僕は小鳥さんから依頼を受けた。彼女の意志が無ければ、そばを離れるつもりはない」

**アキラ：**「とはいえ、現状では、君が明日香を誘拐したことになっている。明日香が君を信頼しているのは結構だが、私はそれを素直に信じる訳にはいかなくてね。……仕事柄の悪い癖かもしれんが」

**ジン：**「潔白を証明すればいいのか？」

**リーザ：**「こいつは白だよ、社長！」

**ケノ：**「わっちも保証するっすよ！！」

**アキラ：**黙って、じっとジンを見ていようか。

**RL：**小鳥もまだ泣きながら、やり取りを聞いていますね。

**ジン：**「僕はいま、証明する方法を何も持っていない……。もし、ここで僕を捕まえる、と言うなら」肩をすくめて「お手上げさ。だから僕は、力づくでもあなたから逃げないとね」アキラと目線を合わせたまま、そう言います。

**ケノ：**「そろそろパトカーが近くに来てるっすよ！」(笑)

**アキラ：**……RL、ここで神業の≪制裁≫を使います。

**RL：**どのような効果ですか？

**アキラ：**ジンの指名手配をときます。

**リーザ：**一瞬逮捕かと思った(笑)　人が悪いなーもうっ。プレイヤーがはらはらしましたよ(笑)

**ケノ：**ほんとっす(笑)

**RL：**許可しましょう。

**アキラ：**ブラックハウンドに「あれはデマだ」と連絡をする。そしてジンに向かって声をかける。「正式な取引をしよう。妹を追い詰めた原因を断つ手伝いを依頼したい。二人とも一生かくれんぼをしている訳にもいくまい」

**ジン：**小鳥の方を見る。今の僕は彼女のボディーガードだからね。

**RL：**小鳥は大きく深呼吸をして落ち着いてから言います。「兄さん……、ありがとう。ジンさん、お願いします」

**ジン：**「……分かった。なら、協力させてもらう」

**RL：**ここらでシーンを切りましょうか。

▼整理▼

**RL：**次のシーンはどうしましょうか。

**リーザ：**情報交換なんかはしたことにしていいんですか？

**RL：**かまいませんよ。

**ケノ：**まとめてほしいっすー。

**RL：**そうですね。一度整理しましょうか。と言っても……

・小鳥（明日香）はCMEから逃げ出したい。奴隷のような生活を送っているらしい。過去の経歴が神業で消されており、姿もアキラの知るものとは異なっている。

・ジュング♂と佐々木麗香が繋がっている。

・佐々木麗香は元ヤクザで、人買いなんかもしていた。夢をかなえたいらしい。

**RL：**こんなところですが(笑)

**ジン：**小鳥からちゃんと話を聞きたいね。

**アキラ：**過去なにがあったか確認するシーンだな。ふむ……。場所を用意するか。

**ケノ：**あっしの家！(笑)

**アキラ：**そんなところには行かん(笑)

**RL：**ではアキラさんのシーンにしましょうか。

▼核心、そして▼

**アキラ：**神業の≪M&A≫を使って、ネットからも隔絶された核シェルター並みの超すごいセーフハウスを用意しよう。ここに妹を匿う。

**ケノ：**超すげー(笑)

**RL：**おお……、いいでしょう。

**リーザ：**相手に神業使われないと見つからない、という感じですか？

**RL：**そうなりますね。

**ジン：**保険も掛けておこう。僕が神業の≪不可触≫を使って、ずっと小鳥と一緒に行動しているように見せかけておくよ。

**RL：**むっ……、そこまでしますか……。わかりました。許可しましょう。二人が工作を終わった後、そのセーフハウスに全員登場ですね。

**ケノ：**ウェブに繋がってないと超おろおろするっすよ！「ネトゲができない！　グ●ーもモバ●ーも駄目っすー！」(笑)

**リーザ：**実在の会社名出しちゃだめでしょ(笑)　ちなみに私は二人の手際を眺めながら、ちょっといらいらしてます。

**アキラ：**どうしてだ？

**リーザ：**いや、社長は別にいいんですよ！妹のことですし。ジンが小鳥に対する態度がなんかこう、私に対するものより優しすぎてイラッとくる、みたいな感じなんです(笑)

**ケノ：**乙女(笑)

**ジン：**僕はそんなことにはかけらも気づかない(笑)　淡々と仕事するだけだよ。

**RL：**そうですよねー(笑)

**リーザ：**むしゃくしゃしてケノの食べてるお菓子奪ったり？(笑)

**ケノ：**やめるっす！　わっちは何も悪くないのにー(笑)

**ジン：**「リーザ、どうしたんだ？　様子が変だぞ？」(笑)

**リーザ：**「な、なんでもないよ！」怒ってそっぽむいてから小声で「……」(笑)

**アキラ：**なんて言うんだ(笑)

**リーザ：**そこは小声なので誰にも聞こえません！　でも何かしゃべったことだけは分かるという感じでお願いします。

**ケノ：**デレたの？　病んだの？(笑)

**リーザ：**それは後の展開次第(笑)

**ジン：**怖いな(笑)　ともかく話を進めようよ。すごく楽しいけど、まだ小鳥と何にも会話してないよ(笑)

**RL：**小鳥は部屋に連れてこられて、とりあえずひと安心した、という所ですかね。

**アキラ：**内装は高級ホテル並みに完備されている、ということで。

**RL：**了解しました。

**アキラ：**「ここなら安全だ。明日香。お前も落ち着いただろう。何があったかを詳しく話してほしい」

**RL：**ではソファに腰掛けながら、彼女はぽつぽつと話し始めます。

・自分は数年前にさらわれ、ヤクザたちの間でひどい目にあわされていたということ。

・佐々木麗香がその現状から助けてくれたということ。

・麗香の手引きでジュング♂に会い、神業の≪M&A≫で経歴ごとすべて買われたこと。その時外見も変えられたこと。

・アイドルとしてデビューした初めのうちはとても楽しかったということ。

**RL：**「……でも、最近、麗香さんが私に対してひどいことをするようになってきて。時間も自由もなくなってきて……」

**アキラ：**「それは、本性を現した、というだけだろうな。おそらく」

**ケノ：**「聞いてる限り、麗香ってやつが助けたのも自作自演っぽいっすねー」

**ジン：**「それで、用済みになったから殺される、という話になって……僕のところに逃げてきたわけ、か」

**RL：**小鳥はうなずきます。「私は、自由になりた」

**リーザ：**「ああ、もうっ！」ダン、と壁を殴りますよ。

**ケノ：**キレた！？（笑）

**ジン：**リーザの方を見る。どうしたんだ？

**リーザ：**「さっきから黙って聞いてりゃ、グチグチ文句ばっかりでさ。あんた、相当なアマちゃんだね！？　楽しかった？　自由が欲しい？　舐めんじゃないよ。このN◎VAの世界でそんなもんほいほい転がっちゃいねーんだ！　小鳥さんよ。あんたは一度でも自分で何かしてみようと思ったかい？　また誰かに助けてもらってどうにかなると思い込んでないかい？　え、どうだい。答えてみなよ！」

**RL：**小鳥は、剣幕に押されて黙ります。

**アキラ：**リーザは自分で自由を勝ち取ってきてるもんなぁ。態度が気に食わないのは当然だろうな。

**ケノ：**ついでにジン君も優しくしてるし？（笑）

**リーザ：**そうですね（笑）　自分の意志が感じられないですもん。状況に流されているだけで。もちろん境遇に多少の同情はしてますけどね。

**ジン：**「リーザ。……彼女は必死にここまで逃げてきた。これは彼女の意志じゃないのか？　誰もがみんなお前のように強いわけじゃない。だから、僕みたいなやつが必要なんだ」

**ケノ：**そんなこと言っちゃう？（笑）

**リーザ：**思わずジンに掴みかかっちゃいますよ、そんなこと言われたら！（笑）

**ジン：**「……っ！」

**リーザ：**今にも泣きそうな顔でしばらく睨みつけています。

**ジン：**されるがままになっていよう。

**リーザ：**「……あんたは、優しすぎる」小さく呟いて、手を離します。それから、何かをこらえきれなくなったかのように、別室へ行きます（笑）　退場していいですか？

**RL：**いいですよ（笑）

**アキラ：**ジンに聞こう。「追わないのか？」

**ジン：**「仕事が、優先です」

**アキラ：**俺のセリフを取るな（笑）　かっこいいけどさ。

**ケノ：**リーザちゃんふられた？（笑）

**リーザ：**別にここでどう転んでもらってもシーンは考えてあります（笑）

**ジン：**いいよ。ただし僕も信念のまま動くからね。

**RL：**小鳥も、今のやりとりでいろいろ感じることがあったのでしょう。「ごめんなさい。私も、少し、一人で考えさせてください」と言ってきますが。ちなみにセーフハウスの中、部屋はいっぱいあります（笑）

**アキラ：**「……セーフハウスの中なら、自由だ。好きにするといい」

**ケノ：**「社長、自由の言葉が皮肉に聞こえるっすよ」

**RL：**では小鳥も別室へ行きます。

**アキラ：**「自由に、意志か。まったくもって、子どもの青春ごっこの延長線上だな」

**ジン：**「……あなたはどちらも持っているんじゃないですか？」

**アキラ：**「ふん。束縛があってこその自由、他者の意志があってこその、自分の意志だ。それぞれ単体では存在を定義すら出来ん。そんなもの持っていたところで、何が変わるわけでもあるまいよ」

**ケノ：**「やれやれ、社長は哲学者さんっすねー」（笑）

**ジン：**「……小鳥さんが戻るまで、しばらく休憩にしましょう」そう言って席を立ちます。

**RL：**了解しました。シーンカットしましょうか。

▼審判・真実▼

**RL：**リーザのシーンを作りましょう（笑）

**リーザ：**ありがとうございます。一番奥の方の部屋に引きこもって泣いてます。「ったく、あたしって馬鹿だよな……」

**ケノ：**誘ってるなあ（笑）

**リーザ：**「あいつと一緒に生きてくために強くなろうとしたってのに、裏目に出るなんてさ。ハハハ、ほんと馬鹿だ……」ぺたんと体操座りしながら（笑）

**ジン：**……まだ登場しません（笑）

**リーザ：**さっき追ってこなかったんだから、いきなり来られたら拍子抜けですよ（笑）

**RL：**では、しばらくあなたが泣いていると、小鳥がやってきます。物音を聞きつけたんでしょう。扉ごしに会話をしてきますよ。「リーザさん。ごめんなさい。少し聞こえてしまいました」

**リーザ：**「一人なのかい？」

**RL：**「そうです」

**リーザ：**「……やっぱりアマちゃんだね。きっちりジンのそばにくっついていればいいのに。あたしがここであんたを殺しちゃうかもしれないんだよ？」

**RL：**「殺されてもしょうがない、と思ってきました」

**アキラ：**ほう。

**リーザ：**「……なんのつもりだい」

**RL：**「私の意志について、リーザさんにお話ししたくて」

**リーザ：**部屋の入口まで近づいていって、扉をあけるよ。

**RL：**小鳥はまっすぐにリーザを見ていますね。

**リーザ：**銃口を向けて言います。「殺されてもしょうがない、って言ったよね。あたしが気に入らないことがあったら、撃つよ」

**ケノ：**おお……病むか？（笑）

**ジン：**そうなったら割り込むけど（笑）

**RL：**一瞬ひるんで目を閉じかけますが、それでも一生懸命にリーザに伝えようとしますね。「リーザさんに言われて私、はじめて自分のことをきちんと考えてみることができました。私は確かに状況に流されて甘えてきた。これは事実だと思います。」

**リーザ：**黙って聞いてる。銃口を向けたまま。

**RL：**「何もかも作り物だって、絶望したこともありました。でも、一つだけあったんです。確かに私だ、って思えるものが。それが……」

**リーザ：**睨みつけるよ。

**RL：**「……歌です。私は、本当の私のままで、歌を歌いたい。作られたアイドルじゃなく、一人の人間として、歌いたいんです」……そう言って、静かに目を閉じます。リーザの審判を待っているようですね。

**リーザ：**「……くそむかつく。ああ、もう。本気で嫌になるね！」そう言ってその場で脱力してへたり込みます。

**RL：**「リーザ、さん……？」小鳥はゆっくりと目を開けます。

**リーザ：**「ここでジン君のそばにいたいとか、そういったことを抜かしてくれれば心おきなく撃ち殺してやれたのにさ。本当に自分の意志で考えやがって」

**RL：**小鳥はそばに座ろうとしてきます。

**リーザ：**「寄るんじゃないよ。これじゃ、あたしがただの道化みたいじゃんか」

**ジン：**……そろそろ登場したいです（笑）

**RL：**リーザが良ければ登場してください。

**リーザ：**いいですよ（笑）

**ケノ：**修羅場来るっすか？（笑）

**ジン：**わざと気配をさせて近寄っていきます。

**リーザ：**「へっ、騎士サマの登場だよ。おとなしく守られていなよ！」小鳥をそっちへ追っ払おうとします（笑）

**RL：**小鳥は押しやられます（笑）

**ジン：**受け止めつつ。「小鳥さん。リーザと二人にさせてもらえないか」

**アキラ：**ついに動くかお前（笑）

**RL：**小鳥は小さくうなずいて戻ります。

**ジン：**「リーザ」

**リーザ：**「……なんだよ。色男の優男」

**ジン：**「お前も、僕の守る対象だ」

**ケノ：**おおおキター（笑）

**リーザ：**じわっと涙が浮かんできちゃいます。でもそれを見られたくないから顔をそむけて叫ぶ。「馬鹿言うんじゃないよ。だからあんたは優しすぎるって言うんだ！」

**ジン：**「何と言われようが構わない。僕は、自分の守りたいものを、自分の力で守るだけだ」

**アキラ：**なんだこの正統派主人公は（笑）

**ケノ：**かっけーっす（笑）

**リーザ：**ちょっと沈黙してから聞きます。「あたしと小鳥が、同時に敵に襲われたとしたら、ジンはどっちを守るんだい？」ここで神業の≪真実≫を使います！

**RL：**なんですと（笑）　カッコいいからいいでしょう！（笑）

**ケノ：**選択肢キター（笑）

**ジン：**ここで使われるとはな……（笑）　必ず真実を述べないといけないんだよね？　なら……。「僕は、手の届くところにいる人しか守れないからね。そんな質問をしてくるってことは、リーザは僕の手の届くところにいてくれるってことだよね？」

**リーザ：**「なっ、な」思わず赤面でジンの顔を見ちゃいますよーそんなの！（笑）

**ケノ：**おおおおおお盛り上がってまいりました（笑）

**アキラ：**イカした返答だね（笑）

**リーザ：**攻めたつもりが反撃されました。やばいジン強い（笑）

**ジン：**「そういう状況なら、僕がリーザを守って、リーザが小鳥さんを守って、それで解決だ。そうだろ？」

**ケノ：**うっはー！キタコレ（笑）

**リーザ：**うあやばい、予想以上に完璧の返答をされちゃいました。えー、ちょっと考えさせてください（笑）

**ジン：**いいよ（笑）

**アキラ：**なんだよこの色男、はやく爆発しやがれ（笑）

**リーザ：**えーと……（笑）　「あっははははははは！」ひとしきり爆笑します。涙も流しながら。「あーあー、そうだよ。あんたはホントにそういう奴だよ。ったく、なんかもやもやしてたのが馬鹿らしくなっちゃったじゃないか」

**ジン：**「……何がおかしいんだ？　だって僕とお前の仲だろう。そういう結果になるのは当然じゃないか？」ちなみに、赤面とか、もやもやしてた発言には当然気づきません（笑）

**リーザ：**「はいはい、当然でございますね。なんにもおかしくありませんよ」言いながらもまだくっくっく、と笑ってます。ちなみにリーザとしてはちゃんとジンの一番に考えられているっぽいことを感じられたので満足してます（笑）

**ジン：**「僕は戻るよ。最後の詰めをする」そう言って三歩歩いて、振り返ります。「早く仕事をするよ」さも来るのが当然という口ぶりでそれだけ告げて去ります。

**リーザ：**ジンが見えなくなってから。「ホント、あたしは何をウジウジしてたのかね。社長の言うとおりだ。感情的になると周りが見えなくなるのは悪い癖だって……。やれやれ。ヤキが回ったな」そう呟いて立ちあがりますね。

**RL：**じゃあシーンカットしましょうか。

▼舞台裏▼

**アキラ：**もうすることは一つだな。ジュング♂と佐々木麗香の居場所を掴む。

**RL：**適切な技能でどうぞ。

**アキラ：**<ホットライン><社会：企業>で達成値19。報酬点で21にしておくか。

**RL：**ならば二人がしけこんでいるホテルが分かります。

**アキラ：**これでいつでもカウンターアタックがしかけられるな（笑）

**ケノ：**じゃああたいは、千早社長に、ジュング♂さんを始末してもいいか確認取るっす。<誘惑><交渉><コネ：千早雅之>で達成値17。

**RL：**社長からは、「あらゆる手段でスキャンダルを解決してください」とだけ言われますよ。ぶっちゃけ言外にYESと言っていると思ってください（笑）

**ケノ：**理解したっす。

▼兄妹▼

**RL：**先に戻った小鳥とアキラでシーンを作りましょうか。

**アキラ：**望むところだ。

**ケノ：**あっしは居ていいっすか？　あ、それかジン君に絡みに行こうかな（笑）

**アキラ：**好きにしろ（笑）

**ケノ：**様子見て出た方が面白そうなら行くっす！

**RL：**では小鳥が先に戻ってきます。先ほどと違い瞳に意志が感じられますね。

**アキラ：**「明日香」

**RL：**「兄さん。……ごめんなさい。私のわがままで、いろいろ迷惑をかけて」

**アキラ：**「謝る必要はない。悪いのはお前をこの状況まで追い込んだ環境だ。それに……、いろいろと吹っ切れたようだしな」目を見つめながら。

**RL：**「はい。……私、一人の人間として、暮らしていきたいです」

**アキラ：**「明日の太陽が昇れば、それもかなうだろう。もう少しだけ待っていろ」そう言ってから、冷徹な顔から笑顔になります。そして昔していたように髪をなでる（笑）

**ケノ：**そろそろ登場しよっかな（笑）

**RL：**アキラさんがよければ。

**アキラ：**かまわんぞ（笑）

**ケノ：**ジン君を引っ張ってきます！「二股なんてずるいっす！　こうなったらあっしも混ぜて三股でもいいじゃな」

**ジン：**殴る。

**ケノ：**「あいたっ」

**リーザ：**もはや定番のネタですね（笑）

**アキラ：**「……うるさいのも帰ってきたな。リーザ君はどうした？」

**ケノ：**「ジン君がえっちなことして心に傷を負わ」

**ジン：**殴る（笑）　「あいつなら……」

**リーザ：**登場します！　「いつでも準備は出来てるよ」と朗らかな顔で。

**ケノ：**「ジン君がどんどん容赦なくなってる……。それはそうと待ちわびたっすよリーザちゃん」

**アキラ：**「……日が昇るまでに、元を断ちに行く。明日香は事が済むまでここで待っていろ」そう言ってから、一応リーザに確認しよう。「今から君の依頼主を説得に行くわけだが、ついてくるのか？」

**リーザ：**「愚問だね。あたしはこの胸糞悪い依頼をキャンセルしに行かないといけないからね。ご同行させていただくさ」

**アキラ：**「ふむ。分かってはいたがな。ならば四人で向かうか」

**ケノ：**「あのー社長。あっしには確認しないんで？」（笑）

**アキラ：**「何を確認する必要がある？　依頼の範疇だろう」（笑）

**ケノ：**「言うと思った。ぐすん。わっちはいつもみんなからこんなヒドイ扱いを受けるのであったっす」ま、超楽しいっすけどね！（笑）「でもあっしはここで待ってるっすよ。代わりにこいつを持って言って欲しいっす」と言って社長に犬のおもちゃを預ける。ちなみにこいつの名前は八房っす（笑）

**アキラ：**ああ、イントロンして出るのな。「こいつを通して“智”先生が出張るわけか。ではここで待っていろ」

**ケノ：**「あいあいさー」

**ジン：**「……小鳥さん」

**RL：**「はい」

**ジン：**「少しだけ、待っていてね。すぐに終わらせてくる」

**RL：**「お願いします」小鳥はみんなに向かって頭を下げます。といったところでシーンカットでしょうか。

**アキラ：**次がクライマックスか？

**RL：**特に作りたいシーンが思いつかなければそうなりますね。

**ジン：**小鳥を置いていっていいか本当はちょっと悩んだんだけどね。

**アキラ：**まぁ神業二枚で隠しているからな。よっぽど大丈夫だろう。

**RL：**そうですね。探している側は未だにどこかでジンと小鳥がぶらぶらしているというデマに惑わされています（笑）くそーっ、うまく使われたなぁ。

▼対決▼

**RL：**では、深夜。とあるホテルの一室です。全員登場ですね。

**リーザ：**私から行っていいですか？

**RL：**どうぞ。

**リーザ：**ではドアをノック。「スイーパー天野ですがー。ジュング♂さんはいらっしゃいますかね？」と声をかけます。

**RL：**中のほうで少し物音がした後、返答があるよ。「……依頼の完了か？」

**リーザ：**「ええ、確保はしてますよ」

**RL：**ならガチャ、と扉が開きます。ジュング♂が顔を出します。

**ジン：**扉が開いたらいきなり踏み込む。そして男の胸倉をつかもう。「あなたが小鳥さんを大変な目に合わせたんだな」

**RL：**ジュング♂はリーザのほうを見ながら「……これはどういうことかな」

**アキラ：**二人の後ろから歩いて登場する。「落とし前をつけさせてもらう、という意味だが」

**RL：**ジュング♂はいろいろと理解をしてため息をつきます。「やはりこんなことになったか。だから反対だったんだ」そうすると奥から女性が。「私の夢を叶えてくれるんじゃなかったの？　アイドルとして自由にさせてくれる約束でしょ？」

**ケノ：**イントロンして登場。犬のおもちゃが社長の肩に乗ってしゃべる！渋い男の声っすよ。「他人を自由にするだけとは。つまらん夢だね」

**ジン：**光景がシュールだね（笑）

**RL：**「……あの子はいないの？　そこのボディーガードと一緒じゃなかったのかしら」と女……佐々木麗華が言います。

**ジン：**「あなた方の玩具になるのはまっぴらだ、ってことだからね。彼女を自由にして欲しい」

**RL：**「そう……。それで私たちをどうするつもりかしら？」

**アキラ：**「人身売買と暴行、監禁の罪あたりで、しばらくブタ箱に行ってもらうことになるか」さらっと言う。

**リーザ：**「……こういうことなんで、あたしもこの依頼、キャンセルさせてもらうよ」前金の1ゴールドを投げ返しますよ。

**RL：**「あら嫌だ。私はまだ自由でいたいのよ。ここは見逃してくださらない？」流し目でアキラに言ってきますね。

**アキラ：**「無理だな。人の自由を奪っておきながら、自分は自由でいたいとはとんだお笑い種だ。責任は取ってもらうぞ」

**RL：**ジュング♂が言います。「……なら仕方ない。君たちを始末して見逃してもらうしかないようだ」そう言って神業の《神の御言葉》をジンに使用！精神崩壊させようとします！

**ケノ：**《チャイ》でそれを打ち消します。「無駄なことはやめたまえ。多勢に無勢だ」

**RL：**……本当に多勢に無勢なんですよねぇ。想定ならここに小鳥がいたはずで、彼女を操って三対四で対決になる予定だったのに（笑）

**ジン：**そうだったのか！つれてこなくて良かった（笑）

**RL：**隠してるのに使った神業が一枚だったらなんとかしたんですけどね。それはそうと佐々木麗華も動きますよ。「あんたたち、来なさい！」そうすると廊下にわらわらとチンピラたちがやってきます。20人位かな（笑）　それから《プリーズ！》をジュング♂の《神の御言葉》に使用。「裏切り者の殺し屋さんも、なんとかしちゃって！」するとジュング♂からの殺意がリーザに！

**ジン：**《難攻不落》を使用！ジュング♂を殴り飛ばして止めさせる。「リーザも僕が守る。手出しはさせない！」

**リーザ：**わぁお（笑）　「社長さん、これはもう、正当防衛だよねぇ？」銃を取り出しながら聞きます。

**アキラ：**「そうだな。“智”先生。きちんと記録を取っておいてくれたまえ」

**ケノ：**「……了解したよ」

**リーザ：**「ならいっちょ行きますか！」神業の《とどめの一撃》！銃を撃ってジュング♂を気絶させます！

**RL：**むぅっ……。それは止められない。でも佐々木麗華が《天罰》を使用。ジュング♂を蘇らせるよ。「愛しい人、そんなもので気を失ってちゃだめよ！」

**アキラ：**「やはり元凶はお前の方か。ならば一生ブタ箱の中で自由のありがたみを感じ続けるがいい」そう言って《神の御言葉》を麗華に。昏睡させよう。

**RL：**ジュング♂が《タイムリー》を使用！気付薬を麗華に使って意識を取り戻させる。

**ケノ：**リーザに《プリーズ！》っす。《とどめの一撃》でジュング♂にダメ押しを！もっかい気絶させるっす！

**リーザ：**了解っ。ケノのハッキングで瞬間的にリロードされた私の銃が再び火を噴きます。

**ジン：**それとタイミングを合わせて、佐々木麗華の首筋に手刀を入れて気絶させる。神業の《死の舞踏》だ。

**RL：**……二人とも、なすすべなく気絶させられます。

**アキラ：**廊下のチンピラたちに言おう。「今なら君たちは何もしていない。すぐに罪には問われないが？」

**RL：**そう言われるか……。二人も倒れましたし、チンピラたちは蜘蛛の子を散らすように去っていきますね。

**ジン：**「……あとは、アキラさん、お願いします」

**アキラ：**「わかった。すぐ手配しよう」警察の人員をよこすように連絡する。

**ケノ：**ならここで神業の《電脳神》を使っておこうかな。ウェブに「ジュング♂とアイドルの小鳥は急病により療養することになりました」という情報を流すっす。これでいなくなってもまぁ大丈夫でしょ（笑）

**RL：**許可しましょう。シーンをカット。

▼空へ飛び立つ小鳥▼

**RL：**ではエンディングです。まずは合同で。セーフハウスに戻ってきたところでいいでしょう。

**リーザ：**はい！やりたいことがあります。小鳥さんに話を切り出しますよ。

**RL：**どうぞ。

**リーザ：**「あんた、一人の人間として生きたいんだよな？」

**RL：**「……はい」

**リーザ：**「あたしは何でも屋だからね。二時間位くれれば、あんたを元の姿に戻してやることくらいできるけど？」

**RL：**「いいんですか？」

**リーザ：**「あんたがその姿のままだと、何かとめんどくさいことが起こるし、それにジンが……あんたを守り続けないといけなくなるのもかったるいしね」

**ジン：**「姿がどうなろうと彼女は依頼人だぞ？」（笑）

**ケノ：**「ちょ、ジン君！ここは空気読めっすよ！」（笑）

**ジン：**はてなを浮かべてるぞ（笑）

**リーザ：**ため息をつきます。「まぁ……なんでもいいや。ちょっとこっちにきな。小鳥……いや、明日香さんよ」というわけで、《タイムリー》を使います。小鳥を元の明日香の姿にします。

**RL：**了解しました。それではシーンを切って個別のエンディングにしましょう。

▼任務完了▼

**RL：**まずはケノから。

**ケノ：**千早社長に連絡。「お仕事終わったっすよー」

**RL：**「ご苦労様でした。あなたなら解決してくれると思っていました」

**ケノ：**「まああとの問題はライブの方なんすけどね」

**RL：**「病気療養なら致し方ありません。キャンセル料程度で済んだのですから。十分ですよ」

**ケノ：**「なら良かったっす。……また仕事があったら連絡くださいねー。」そう言って切るっすよ。「はぁ……。長い一日だった」

**RL：**シーンカットしますか？

**ケノ：**最後に。「まったく、ジン君はいつわっちの本当の気持ちに気づいてくれるんすかね……」と小さくつぶやいておこうっと。次回以降のための伏線（笑）

**ジン：**おい！（笑）

**RL：**（笑）　シーン終了です。

▼日常へ▼

**RL：**アキラのシーン。

**アキラ：**いつものように仕事をしている。

**RL：**ではそこに明日香が訪ねてきます。「兄さん。少し出かけてもいい？　ちょっと街頭ライブをしてこようと思って」

**アキラ：**「……わざわざ私の許可をとらなくてもいい。お前は自分の意志があるんだろう？」

**RL：**えへへ、と笑ってから。「ジンさんにも会ってきますから。ちょっと遅くなるかもです」

**アキラ：**一瞬片眉だけぴく、と動かしてから。「……そうか。リーザ君に殺されんようにな」とだけ言おう（笑）

**RL：**「大丈夫ですよー！それじゃ、行ってきます！」そう言って元気に駆け出していきます。

**アキラ：**「まったく。結局子どもは子どものままか」苦笑してそのまま仕事に戻ります。

**RL：**シーンカット。

▼幼馴染▼

**RL：**リーザのシーンですね。

**リーザ：**徹夜だったから、事務所で突っ伏して寝ています（笑）

**RL：**ほう……。ならそこに電話がかかってきますね。

**リーザ：**当然留守電に。「あー、こちら“スイーパー天野”。清掃は１、リサイクルは２、見積もりは３をコールしてください」

**ジン：**登場する（笑）　００をコールします。あ、これは「オレ」って事ね。幼馴染専用コール（笑）

**リーザ：**ええーっ！そんなのがあったの！？（笑）

**ジン：**あるんだ（笑）

**リーザ：**勝手にもー！　仕方ないから電話に出ます。寝起きでめちゃめちゃ不機嫌な声で。「……なんだいジン。あたしゃ眠いんだ。どうでもいい用事ならまた今度にしてくれないかい」

**ジン：**「これから明日香さんのライブがあるから、一緒に聞こうと思ってさ。……でも疲れてるならしょうがないね。また今度誘うよ。じゃあね」って切ろうとします（笑）

**リーザ：**ひどい（笑）　「場所と時間教えなよ。……行けたら行く」

**ジン：**「なら……」と言うわけで伝えました。

**RL：**この辺でシーンカットしましょうか。

▼明日へ▼

**RL：**ではジンのシーンです。さっきの続きになるんでしょうかね（笑）

**ジン：**はい。明日香さんのライブを聞いてます。

**RL：**「～♪」明日香はきれいな歌声でいろいろと曲を披露してます。観客も結構いるみたいですね。

**ジン：**それを見ながら笑顔を浮かべています。

**リーザ：**横に登場します（笑）　「まぁまぁの声だね」

**ジン：**「いい曲じゃないか。これなら本人の実力でデビューも近いんじゃないかな」

**リーザ：**「はん、それは楽観的過ぎるんじゃないのかい？」そう言いながらも聞いてますよ。

**RL：**ではその辺で、明日香が新曲の紹介をします。「これは私が作った新曲！題名は『絶対あきらめない！』です」そう言って、リーザのほうに視線を合わせます（笑）

**リーザ：**なんですと（笑）　「……胸糞悪いな。あたしゃ帰るよ！」

**ジン：**「なんでだ？　せっかく来たのに……」そう言いつつ明日香に手を振ったりしてよう。

**リーザ：**それを見てさらに額に怒りマーク（笑）　「あーもうっ！帰るったら帰る！　あんたなんか知らん！」

**ジン：**「はぁ？　訳がわからないよ……」

**RL：**そんなところで、明日香の曲が始まって、シーンエンドです。お疲れ様でした！！

**全員：**お疲れ様でしたー！

▼後書き▼

お疲れ様でした。著者のO-Ton（おとん）と申します。一児の父で、Ｍｒ．ヒロインとか言われてます。ここまで読んでいただきありがとうございます。

ＴＲＰＧの中で僕が好きなシステムのひとつ、トーキョーＮ◎ＶＡの雰囲気が伝わりましたでしょうか。

僕の周りでは、こんな風にキャラクター間で人間関係を楽しむプレイが多いです。（Ｎ◎ＶＡに限りませんけどね）

これを読んで少しでもＴＲＰＧに興味を持ってくれた方がいたら幸いです。

名大のサークル「ラガドーン・タバーン」でもＴＲＰＧをやっています。それ以外の場所でも、オンラインセッションや、公共の場で行うコンベンションなんかが開かれています。

ぜひ、一度遊んでみましょう！

それでは、どこかでお会いできたら幸いです。

製作・著作：O-Ton

製作協力：ラガドーン・タバーン

トーキョーＮ◎ＶＡは（有）ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。